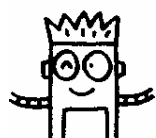


## へいし 平氏は、どんな一族だったの



もと皇族こうぞくだった人の子孫で、特に高望王たかもちおうの子孫は、  
武士として発展はってんしたんだよ。

### 平氏には、四つの系統けいとうがある

古代から1947年まで、皇族てんのうが、天皇から姓かばねをもらって、皇族からはなれる制度がありました。これを、賜姓降下しせいこうかといいます。賜姓降下がさかんだったのは、平安時代初期で、天皇の子・孫などが、源みなもと・平たいら・在原ありわらといった姓かばねをもらって、皇族からはなれました。平氏の場合は、どの天皇の系統かによって、桓武平氏かんむへいし・仁明平氏にんみょうへいし・文徳平氏もんたくへいし・光孝平氏こうこうへいしの4系統があります。いちばん栄えたのは、桓武天皇の系統の桓武平氏で、特に桓武天皇のひ孫の高望王たいらのたかもち（平高望）の子孫は、武士として発展しました。

### 高望王の子孫は、東国の各地こうぞくで豪族になった

高望王は東国に住みつき、その子孫も東国の各地に住んで、豪族になりました。なかでも、千葉ちば・上総かずさ・三浦みうら・土肥とい・秩父ちちぶ（のち畠山）はたけやま・大庭おおば・梶原かじわら・長尾ながおの8氏は、坂東八平氏ばんどうはちへいしとよばれます。11世紀に、源氏げんじに頼義よりよし・義家よしいえなどの名将めいしやうが続くと、これらの豪族は、源氏の家来になり、後には、鎌倉幕府の有力な御家人になりました。また、平将門たいらのまさかどや、北条氏ほうじやうし・熊谷氏くまがいし・長田氏おさだし・城氏じやうしなども、高望王の子孫です。

### 伊勢平氏いせへいしから、平清盛たいらのきよもりが出た

高望王の子孫の一部は、伊勢・伊賀いが（三重県）に移り、伊勢平氏とよばれました。伊勢平氏の中からは、平安時代末期に出た正盛まさもり・忠盛ただもりが、朝廷ちやうていで勢力を広げ、清盛の代には、政権をにぎりました。また、高望王のおじ高棟王たかむねおうの子孫からは、清盛の妻時子ときこや、その弟時忠ときただが出ました。